徨へる心のまま にこ 昭 和

 $\overline{+}$ 几 年

歌

斯^かく たしょうしょう 地に星の飛ぶな 々の闇 、ある は人なと にとけ 八の宿命・ Ŵ n 面影が か Ż

> 燃もえ 例れっ 、狂ふ情熱の Ó 玉ま 散ち る 知なない 0

苦く 悩る 相言え の旅が みに頬を濡らせば がを逝く なり

き

若き身のな 裏に留き 焰は

春るさめ も楡影にれかげ ったふ

微 電 量 世 痛^たま 初な 夏っ E に咲き出 で 癒 え しき (の野に陽炎たてば て幸福は希望は 。 魂 の疵乳 ゴブる華は 0

散り果る

Ť 0

て悲哀を秘め

三春秋せ

絢ゥ

夢原も

始林影

汐飛沫浴び 友もがき 寥 々 月きかげ 秋きふか 斯く故に千草ふみし 外き磯にた 々の孤杖を運ぶりょう こじょう はこ 心に宿命解れる にっぱん ここれ こうだめ と の誓が いし 佇たず 言葉ば がん 彼カ 0 時き ع

I め て

陵を去る 聴っき 然えぬ 0 新き たな旅出 つ遊子の瞳 愛情と決意に れ ぬ

伊 藤 池 露弘 田 基 君 君 作 作 歌 曲

雪^ゅ の

舞ふ砂丘薄れ

7

光輝なき旧り

ŋ

ソし仕種は

みし 白いまたま いのみず

叫ぶには余りに深く 消え去りぬ名残の水際 忘却の寄する汐音に ばうきゃく

には余りに虚した。

の赤き血

浜まなす

潮よ

nは 流^{なが}